物流（国内製品輸送）

石油製品は、製油所から全国のSS（サービスステーション）や油槽所、工場などに向け、タンクローリーや内航タンカーにより輸送されます。この部門では、タンクローリーや内航タンカーの大型化、油槽所の統廃合、他社との共同化など、早くから効率化・省エネルギーに取り組んできました。

燃料消費の削減では、陸上・海上とも、2010年度までに1990年度比で9%の削減を目標としていますが、すでに当初目標を上回る成果をあげています。

車型の大型化・効率配送などを進め燃料消費量の大幅低減を達成
〈陸上輸送〉

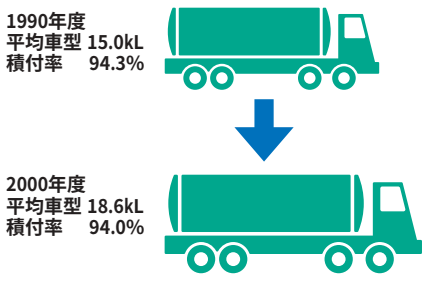
陸上輸送では、車輌の大型化、稼働時間延長、台数の削減を進め、省エネルギーを図っています。

車輌大型化は業界トップクラスとなり、ローリー1台当りの稼働時間についても、夜間配送、日曜祝日配送の拡大などで向上しました。

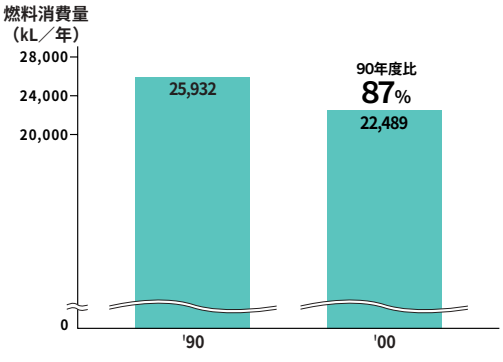
こうした施策の結果、2000年度の燃料消費は、1990年度に比べ13%の削減を達成しています。

今後さらに自動配送システムの活用による積付率の向上や夜間配送の拡大による配送効率の向上に努め、燃料消費量の削減を目指します。

タンクローリーの平均車型と積付率



タンクローリーの燃料消費量



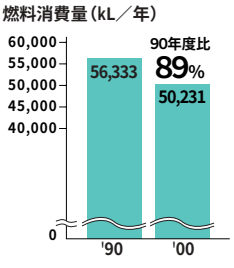
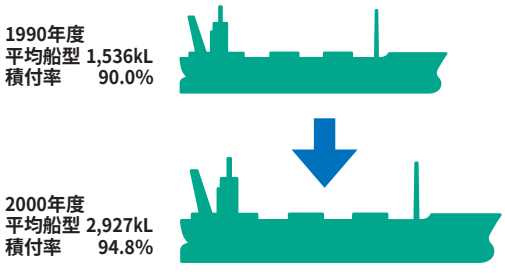
船型の急速な大型化を推進 積付率も向上、効率アップ
〈海上輸送〉

製油所から物流基地や油槽所などへの輸送には、数千t級の内航タンカーを使用します。内航タンカーでも、近年、平均船型の大型化、積付率の向上を進め、稼働率のアップを実現した結果、燃料の消費は1990年度に比べ11%の削減を達成しています。

今後も、きめ細かな計画で配船のミスマッチを減らすとともに、日石三菱（株）との提携を活かし、受け入れ基地の共同化などの方法で、船型の大型化をさらに進めていきます。また、減船、休日・夜間荷役の推進などにより、稼働率アップを図り、さらなる燃料消費の削減を目指します。

大型化する内航タンカー

内航タンカーの燃料消費量



内航タンカーの平均船型と積付率